

14. 自由民権運動

○自由民権運動…明治 10 年代に明治維新の立役者である薩長中心の政府(藩閥政府)の専制政治に反対し様々な政治改革を要求して展開された政治運動。1874 年に中央政府から下野した板垣退助が民撰議院設立建白書を提出したのが発端となり、政府に不満を持つ士族層や地主層を巻き込んで全国に広がった。明治 13-14 年ごろには最盛期を迎えるが、10 年代の終わりごろには、政府の弾圧などにより衰退した

- ・自由民権思想
 - イギリス系民権思想 (穏健) ミル・スペンサー
→福沢はじめ明六社メンバーらが支持《官民調和》
 - フランス系民権思想 (急進的) ルソー
→中江兆民・植木枝盛らが支持《主権在民, 抵抗権・革命権》

□中江兆民なかえちやうみん[1847-1901]明治の啓蒙思想家・政治家。ルソーの影響を受け、フランス流の急進的民権論を説く。(→東洋のルソーと呼ばれる)晩年は国家主義に傾倒

[著書]『三酔人経綸問答さんすいじんけいりんもんどう』(民主主義者の洋学博士・侵略主義者の豪傑君・現実主義者の南海先生が、近代化しつつある日本をいかに独立・発展させるか説いたもの。欧米の合理主義と日本の国粋主義との風潮の対立の中で自己を確立せんとする日本の知識人の苦悩が語られている)

『一年有半いちねんゆうはん』(余命一年半となった兆民の遺書。明治日本への批判がつづられている)

『民約訳解みんやくやくかい』(ルソーの『社会契約論』を漢訳。主権在民の原理や抵抗権が、民権運動に大きな影響を与える)

・恩賜的民権…為政者が上から人民に与えた民権(人民の諸権利)

・恢復(回復)的民権…人民自らが勝ち取った民権

日本→恩賜的民権 [市民の意識⊕]

英仏→恢復的民権 [市民の意識⊕]

理想は恢復的民権だが、日本の時勢を考慮し、恩賜的民権を恢復的民権と変わらないようなものにしよう!

□植木枝盛うえきえもり[1857-92]明治の自由民権思想家。維新後上京し、板垣退助の演説によって自由民権思想に目覚める。近代政治思想を学ぶ中で、急進的な民権思想家として有名になった。[著書]『民権自由論』

・東洋大日本国国憲按とうようだいにほんこくこっけんあん…植木が起草した私擬憲法案。「主権在民」の考えに基づき、君主権能の制限・基本的人権の無条件保障・抵抗権の規定・一院制の議会の強い権限などを主な内容としていた。

センター問題に挑戦! No.14 (2008 年追試) [や・難]

啓蒙思想に関して、啓蒙思想家の一人である中江兆民に関する説明として適当でないものを、次の ①~④ のうちから一つ選べ。

- ① 『三酔人経綸問答』を著し、恩賜的民権から立憲君主制を経て恢復(回復)的民権に移行すべきだと説いた。
- ② ルソーの『社会契約論』を『民約訳解』として翻訳するなど、急進的なフランス啓蒙思想の移入に努めた。
- ③ 平民社を設立し、『平民新聞』で反戦平和の大切さを訴えるなど、自由民権運動を積極的に推進した。
- ④ 『一年有半』『統一年有半』を著し、神や靈魂の存在するなど、独自の唯物論を述べた。

[No.13 の答 ④ 説明は略]